

国立

三重大学

問合せ先 学務課医学科担当

☎514-8507 三重県津市江戸橋2-174

☎(059)231-5063 <http://www.medic.mie-u.ac.jp/>**教育目標&特色**

教育理念は「確固たる使命感と倫理観を持つ医師を養成し、豊かな創造力と研究能力を培い、人類の健康と福祉の向上に努め、地域及び国際社会に貢献する」こと。この理念に基づいて、特色のある国際化教育と地域医療教育が実践されている。教育目標は、①医師に要求される人間愛と倫理性及び幅広い教養を身につける、②医師として活動するために必要な態度、知識、技能を修得し、さらにその発展に強める、③問題解決能力を培い、創造的な医療と医学研究を行う、などを掲げている。国際化教育では、6年次の学生の約半数が参加する海外臨床実習、1年次～3年次を対象にした早期海外体験実習、海外の交流大学からの学生受入れによる学内環境の国際化、実践的専門英語教育、体系的国際保健医療授業など実施されている。また、地域医療教育では、三重県、市町村振興協会、地域の関係教育病院の協力を得て、6年間を通して地域で学べる体制が整備されている。

カリキュラムの特色

入学してから2年次前期までは、医学を学ぶための基本姿勢と基礎知識、医学英語を学ぶ。患者体験実習では医師や病院に望まれることを感じ、地域医療実習では、入学当初から継続的に地域や病院での医療に触れて、医の原点、医師としてのあり方について学び、医学英語では、医学の学習に必須のボキャブラリーと英語による医学的なコミュニケーションの基礎を学ぶ。3年次後期から4年次後期では、PBL(問題基盤型)チュートリアル教育が行われる。これは、学生自らが主体となって能動的に医学を学ぶ問題解決型のカリキュラムで、学生7～8人が1グループとなり、教員はチューターとして、学生個人や担当グループの学習を支援。実際の症例をもとにした学習課題を基盤として、基礎医学から臨床医学にわたる知識を連携づけて身につける。3年次後期から4年次前期では、研究室研修で研究を通して、医学への興味と理解を高める。各自が基礎系、臨床系の研究課題を持ち、教員の指導のもとに研究を行い、結果は英文または和文の論文に仕上げる。4年次では、医療面接(患者とのコミュニケーション・病歴聴取)、基本的身体診察、臨床推論、診療録記載に必要な技術、態度、思考力を習得する。5年次前期から6年次前期では、附属病院及び教育関係病院において1年半の臨床実習(クリニカル・クラークシップ方式)を行う。医療スタッフの一員として患者に接することによって生まれてくるモチベーションを背景に、さまざまな疾患を理解し、実際の治療方法を学んでいき、相当なレベルの医療行為や病棟業務を実施する。医師としての責任感を自覚し、患者の立場に立った医療を行うことが重要であり、病院スタッフの指導のもとに医療現場で医療技術を身につける。5年次では基本診療科でのクリニカル・クラークシップ、6年次では内科の専門領域と、海外の医療現場での体験を含む、各自が希望する臨床実習を行い、臨床能力を高める。

大学DATA

- ◆沿革 昭和18年創設の三重県立医学専門学校が前身。三重県立医科大学、三重県立大学医学部を経て、昭和47年に国立に移管して三重大学医学部を設置した。
- ◆学部所在地 問合せ先に同じ。アケス近鉄江戸橋駅下車、徒歩約15分。JR津駅前バス乗り場4番から三重大学方面行三重交通バスで約10分、大学病院前下車。
- ◆学部学科・定員 医学部＝医学科125名
- ◆大学院 医学系研究科＝生命医科学専攻45名
- ◆おもな附属施設 附属病院、バイオバイクセンター、地域連携医療研究センターなど。
- ◆学寮 安濃津寮・定員100名(男子)、清和寮・定員60名(女子)。いずれも他学部と共用。

参考資料

●医師国家試験合格率

区分	全 体				新 卒				既 卒			
	志願者	受験者	合格者	合格率	志願者	受験者	合格者	合格率	志願者	受験者	合格者	合格率
2017	135	133	126	94.7%	122	122	120	98.4%	13	11	6	54.5%
2016	137	136	124	91.2%	125	124	119	96.0%	12	12	5	41.7%
2015	123	122	112	91.8%	118	118	110	93.2%	5	4	2	50.0%

●学校納付金(2018年度)

区 分	入学手続時	初年度総額	2年次以降
入学金	282,000 円	282,000 円	-
授業料	267,900 円	535,800 円	535,800 円
合 計	549,900 円	817,800 円	535,800 円
6年間総計	3,496,800 円		

*ほかに諸会費が必要になる。

●奨学金制度

日本学生支援機構奨学金のほかに、地方公共団体や民間奨学団体の奨学金制度がある。

2018 年度入試要項

募集人員

区分	一般前期	一般後期	推薦	A O	編入学
医学科	75	10	40	-	-

* 推薦入試の内訳は一般枠 10 名、地域枠 A 25 名程度、地域枠 B 5 名程度。

試験日程

試験区分		出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
一般入試	前期日程	1月22日～1月31日	2月25日・26日	3月7日	3月15日
	後期日程		3月12日	3月22日	3月27日
推薦入試	1次選考	12月15日～12月20日	書類審査	2月1日	
	2次選考		2月5日・6日	2月7日	2月14日

入試科目

試験区分	教科	科目(→は選択科目数)	配点	時間	
センター試験 (前期・後期)	国語	国。	100	80	
	地歴・公民	世B、日B、地理B、現社、倫政経→1。	100	60	
	数学	数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数Bの計2。	100	各60	
	理科	物、化、生→2。	200	各60	
	外国語	英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓→1。	100	80	
個別試験	前期日程	数学	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B(列べ)。	200	120
		理科	物基・物、化基・化、生基・生→2。	200	150
		外国語	コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ。	200	80
	後期日程	面接	個人面接。	100	-
		小論文	英語の理解力を必要とするものを含む。	200	120
		面接	個人面接。	100	-

* 小論文は人間、健康、医療、生命科学、時事問題などに関わる課題を提示して論述させ、洞察力、論理構成力、表現力などを総合的に評価する。面接は志望理由、学習意欲、理解力、表現力、論理性などを評価し、医学、医療、科学、社会などに関する関心度を評価する。

推薦入試

①**推薦条件**＝三重県の地域医療に貢献する意志のある者で、一般枠は成績概評A段階の現役・1浪。地域枠Aは三重県内の高校または保護者が三重県内に居住する成績概評A段階の現役・1浪。地域枠Bは保護者が三重県内に居住しており、県内の対象となる市・町長と三重大学医学部が指定する病院院長が共同で行う面接を受け、対象となる市・町長の推薦を受けた成績概評A段階の現役・1浪。②**選考方法**＝書類審査・センター試験(5教科7科目)の成績による1次選考の合格者(募集人員の2倍程度)に小論文・面接を課す。<センター試験> ◇国語＝国。◇地歴・公民＝世B、日B、地理B、現社、倫政経から1科目選択。◇数学＝数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数Bの計2科目。◇理科＝物、化、生から2科目選択。◇外国語＝英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1科目選択。小論文は医学、医療、科学、社会などに対する関心度を評価し、理解度、考察力、記述力、論理性などを総合的に評価。面接は志望理由、学習意欲、理解力、表現力、論理性などを評価し、医学、医療、科学、社会などに関する関心度や三重県の医療に対する関心度を評価する。

* **合否判定** 一般入試はセンター試験・個別試験の総合点で判定する。合否線上の同点者は個別試験の得点が上位の者を合格とする。面接の評価によっては、総合点の順位に関わらず不合格とすることがある。

* **二段階選抜** 一般入試は前期5倍、後期10倍で実施する。

* **試験場** 一般・推薦＝本学(近鉄江戸橋駅下車、徒歩約15分)。JR津駅前バス乗り場4番から三重大学方面行三重交通バスで約10分、大学病院前下車)。

* **受験料** 一般17,000円、推薦17,000円

入試のポイント

一般入試のセンター試験は前期・後期とも 5 教科 7 科目、個別試験は前期が数学・理科・英語の 3 教科＋面接、後期が小論文・面接。数学は基礎的な内容を的確に把握しているか、論理的な考え方ができるか、問題を解くための発想力・思考力・計算力が備わっているか、自分の考えたことを、論理的かつ明確に表現できるかなどを、総合的に判断し、評価。物理は自然現象や実験、観測などにおける物理現象および物理法則の理解度を問うことによって、物理学に対する知識、理解力、推理力、計算力、論理的思考力を総合的に評価。化学は観察や実験に基づいて化学的な事物・現象を理解する力、化学の基本的な概念や原理・法則を活用して正しい結論を導く力を問うとともに、化学に対する論理的思考力と推察力を評価。生物は生命現象の特徴を遺伝子、細胞、組織、個体および群集レベルでとらえ、分類学、生態学、生理学、発生学、生化学、遺伝学、分子生物学に基づいた思考力、それらの基礎的な概念の理解力を問うとともに、総合的に分析し考察する能力を試す問題を出題。英語はマークシート方式の試験では測ることが難しい総合的な読解力と表現力の達成度を主な採点・評価基準としている。

2017 年度入試DATA

●入学者選抜実施状況

* 2段階選抜は第1段階不合格者数を示す。

区分	募集人員	志願者	2段階選抜	受験者	当初合格	追加合格	合格者	競争率	入学辞退	入学者
前期日程	75	411	36	326	77	0	77	4.2	0	77
後期日程	10	154	54	37	10	0	10	3.7	0	10
推薦入試	40	128	-	64	38	0	38	1.7	0	38

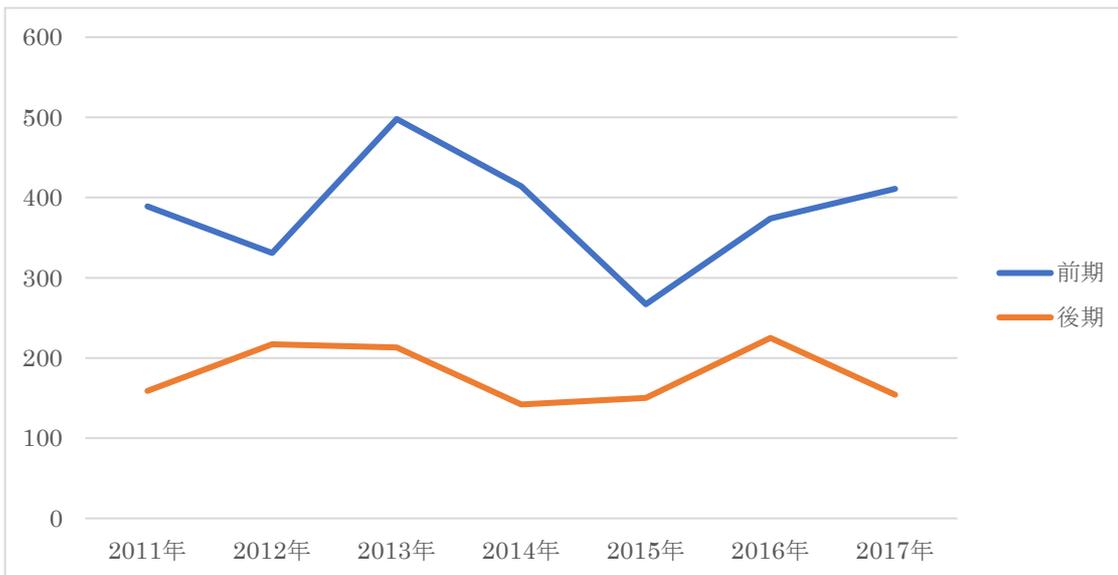
【合格者の成績】

カッコ内は 2016 年度。

区分		配点	最高点	最低点	平均点
前期	セ試	600(600)	553.50(562.00)	493.50(491.60)	528.10(529.63)
	個別	700(700)	615.50(607.00)	514.00(495.00)	558.50(550.11)
	総合	1300(1300)	1154.60(1140.90)	1056.70(1045.90)	1086.70(1079.74)
後期	セ試	600(600)	566.20(572.20)	519.30(543.90)	542.44(547.49)
	個別	300(300)	252.00(228.00)	224.00(190.00)	237.00(205.80)
	総合	900(900)	799.20(776.20)	766.10(737.80)	779.44(753.29)

* 入学者の男女別内訳 男子 88 人、女子 37 人。

【志願者数の推移】



●小論文の内容

一般入試(後期)・推薦入試で課す。今春の後期は、[1]Japan Times の記事' The power of compliments' (ほめ言葉の力)の抜粋が提示され、設問に論述。[2]科学雑誌 The Lancet の記事' 2016 Nobel prize in medicine goes to Japanese scientist' (細胞の自食作用解明と医療への期待)の抜粋が提示され、設問に論述させた。

●面接の内容

一般入試(前期・後期)・推薦入試とも実施する。面接官3名で、時間は10分。志望理由、学習意欲、理解力、表現力、論理性等を評価し、医学、医療、科学、社会等に対する関心度を評価している。